

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は 発表学会等の名称	概 要
(著書(欧文)) 1.				
(著書(和文)) 1. 明日からの子どもの 食育にすぐに役立つ 本	共著	2005年6月	フットワーク出版	<p>2005年の食育基本法の創設にあわせて、食育指導の現場で役に立つ実践例を課題別にまとめたものである。排泄は食とは切っても切れない関係であり、食べたり、生活した結果が便となって出てくる。便をよく見ることは結果を見ることと同じであり、見方がわかれば説得力のある食育の材料となる。子どもたちが結果を見て食を振り返ることができるように指導方法をまとめ、小学校や幼稚園の教諭でも簡単に指導できるようにした。</p> <p>全307頁 編者：「食生活」編集部 共著者：坂本元子、本田恵、中村壽美子、根ヶ山光一、長谷川智子、太田百合子、星旦二、大村直己、岡本正子、二見大介、塚本定代、田中昭子、金城昇、丸谷宜子、佐藤綾子、斉藤道子、野田知子、阿部裕吉、伊藤宜子、甲藤温子、坂内幸子、柳澤芳子、和田和美、金田雅代、西尾洋之、本間千枝子、村上八千世、村上祥子、砂田登志子、坂本廣子、大屋美菜子、中村千里、赤堀博美、内藤寛子、岡林一枝、杉浦ヒロ子、菅野廣一、足立己幸 本人分担部分：第4章 ユニークな実践例3 学外からのアプローチ「正しいうんこの知識で子どもの便秘を治す」(199-206頁)</p>
2. 保育園は子どもの宇宙だ！トイレが変われば保育も変わる	共著	2007年4月	北大路書房	<p>おおわだ保育園がトイレの改修をきっかけに保育士や保育そのものが変わっていく様子をまとめている。環境が変わることによって、排泄に対する子どもの主体性が際立ち、保育者の振舞いや考え方にも変化が生まれる。環境の変化と共に保育が変化することを保育士が認識することによって環境の大切さを改めて考えることができる。環境に働きかけることで子どもの意欲や動きが変わることを保育士が認識し、積極的に環境に関わり、保育を見つめなおすことができる。</p> <p>全109頁 監修：無藤隆、汐見稔幸 編者：岡本拡子 共著者：馬場耕一郎、村上八千世、本田美佐枝、汐見稔幸、無藤隆、ト田真一郎、瀧川光治、寺田清美 本人担当部分：第1部トイレは子どもの宇宙だ！「トイレづくりは人づくり 1～2歳児のためのトイレ改修」(8-20頁)</p>

3. 最新版明日からの子どもの食育にすぐに役立つ本	共著	2008年1月	株式会社カザン	<p>2005年版の改訂版。食育指導の現場で役に立つ実践例を課題別にまとめたものである。食育指導の現場で役に立つ実践例を課題別にまとめたものである。排泄は食とは切っても切れない関係であり、食べたり、生活した結果が便となって出てくる。便をよく見ることは結果を見ることと同じであり、見方がわかれば説得力のある食育の材料となる。子どもたちが結果を見て食を振り返ることができるように指導方法をまとめ、小学校や幼稚園の教諭でも簡単に指導できるようにした。</p> <p>全227頁 編者：「食生活」編集部 共著者：坂本元子、長谷川智子、太田百合子、星旦二、大村直己、二見大介、金城昇、丸谷宜子、佐藤綾子、齊藤道子、野田知子、阿部裕吉、伊藤宜子、甲藤温子、柳澤芳子、和田和美、金田雅代、西尾洋之、本間千枝子、村上八千世、村上祥子、坂本廣子、大屋美菜子、中村千里、赤堀博美、内藤寛子</p> <p>本人分担部分：第3章 ユニークな実践例2 学外からのアプローチ「正しいんこの知識で子どもの便秘を治す」(155-162頁)</p>
4. 子どもと食 食育を超える	共著	2013年4月	東京大学出版会	<p>食と子どもを捉える際に、栄養摂取や調理方法、食材のルーツなど従来の「食育」で取り上げられるテーマだけに捕らわれず、食に対する子どもの能動性、主張性、大人とのインタラクションなど「食の発達」そのものに焦点を当てて、捉えようとした一冊。</p> <p>発達心理学の視点から従来の「食」に対するイメージの枠を広げ、子どもの発達と食をダイナミックにとらえようとするもの。</p> <p>全302頁 編集：根ヶ山光一、河原紀子、外山紀子 共著者：上野有理、和田有史、河合崇行、山口真美、田村文誉、青木洋子、黒石純子、板子絵美、則松宏子、外山紀子、榊原洋一、根ヶ山光一、村上八千世、川田学、長谷川智子、大村敬一、河原紀子、関根道和、田中敬子、荒木暁子、関はる子、表真美、酒井朗、今田純雄、横尾暁子</p> <p>本人担当分：食と排泄(128-131)</p>

<p>5. 基本保育シリーズ16 乳児保育</p>	<p>共著</p>	<p>2015年12月</p>	<p>中央法規</p>	<p>保育士養成のための教科書として編集された1冊。その中で乳児保育のための環境づくりについて執筆を担当した。 乳児期の保育環境における環境構成によって、乳児の身体機能が刺激され、運動能力、言語能力の発達を助けるという一連の流れを示し、環境が乳児の発達全体に大きな影響を与えることを簡潔にまとめ、保育者の役割が乳児の好奇心を引き出す環境を構成することにあることを示した。 全190頁 編集：寺田清美、大方美香、塩谷香 共著者：稲葉穂、大方美香、大塚良一、小泉左江子、塩谷香、寺田清美、中舘慈子、西村真美、村上八千世 本人担当分：第12講 乳児保育の環境づくり（133-144頁） （再掲）</p>
<p>6. トイレ学大事典</p>	<p>共著</p>	<p>2015年9月</p>	<p>柏書房</p>	<p>トイレや排泄に関わるあらゆる事象を深く知り、より良い生活を実現させるためのレファレンスブック。歴史学、医学、生理学、建築学、心理学、教育学など多角的に、かつ学術的に編集した総合事典である。その中で幼児や児童の排泄教育「便育」や発達に関する項目を担当した。乳児にとっての排泄の意味、おむつ交換場面におけるコミュニケーション、おむつなし育児、保育所のトイレ事情、羞恥心と排泄行動、排泄教育とトイレ、総合学習のテーマとして「トイレ」に取り組んだ事例などをまとめた。 全415頁 編集：日本トイレ協会 共著者：高橋志保彦、長澤泰、長澤悟、川内美彦、上野義雪、村上八千世他 本人担当分：第19章 教育とトイレ（376-385頁）</p>

7. コンパクト版保育内容シリーズ② 人間関係	共著	2018年3月	一藝社	<p>保育者養成のための教科書として編集された一冊。その中で幼児の遊びや生活を通した人間関係について触れ、他児とのぶつかり合い、遊びの中のルールやきまり、乳幼児の様々な葛藤、模倣遊びに見られる発達、遊びの中の協同性などについてまとめ、他者との関わりがより遊びを楽しくし、難しい課題にも挑戦しようとする意欲を育て、自己主張したり、他者の意見を尊重できるようにすることを示した。</p> <p>全145頁 監修：谷田貝公昭、編集：高橋弥生、福田真奈 共著者：五十嵐淳子、伊藤かおり、大崎利紀子、大沢裕、小林怜美、小沼豊、副島里美、高木友子、高橋弥生、長谷川直子、福田真奈、宮本浩紀、村上八千世、八幡眞由美、山口弘美</p> <p>本人担当分：第4章 遊びと人間関係 (33-40頁) (再掲)</p>
8. 新・基本保育シリーズ15 乳児保育 I (講義編) (演習編)	共著	2019年3月	中央法規	<p>新保育所保育指針の改定内容に合わせて大幅に編集をやりなおした保育士養成のための教科書。その中で3歳未満児の遊びと環境について執筆を担当した。指針の改定により「乳児の教育」の大切さが明確に示され、乳児に対する教育がどのようなものであり3歳以上の幼児教育、または小学校以降の教育とどうつながっていくかをまとめた。</p> <p>全約150頁 編集：寺田清美、大方美香、塩谷香 共著者：寺田清美、稲葉穂、大塚良一、中舘慈子、塩谷香、西村真美、村上八千世、大方美香、小泉左江子</p> <p>本人担当分：講義編第8講 「0歳児・1歳以上3歳児の遊びと環境」 (91～104頁)、演習編第1講 「乳児保育の基本」 (191～200頁) (再掲)</p>
9 ワークで学ぶ 乳児保育 I・II	共著	2022年4月	みらい	<p>保育士養成課程の「乳児保育 I」と「乳児保育 II」を学ぶためのテキスト。その中で第4章「乳児保育における保育内容」を執筆担当した。保育所保育指針の保育内容の「乳児保育」「1歳以上3歳未満児」を取り扱った章で、具体的な事例をあげて、それぞれの期間に取り扱う養護と教育についてコンパクトにまとめた。学生が乳児の発達について概観することができ、保育者としてどのような援助が必要とされているかを学べるように配慮した。</p> <p>全215頁、編集：菊地篤子、共著者：石島このみ、菊地篤子、大内田真理、北村麻樹、村上八千世、他9名、本人担当分：第4章「乳児保育における保育内容」 (52～69頁) (再掲)</p>

<p>10 進化するトイレSDG'sとトイレ—地球にやさしく、誰もが使えるために</p>	<p>共著</p>	<p>2022年9月</p>	<p>柏書房</p>	<p>トイレはSDG'sの様々なテーマに関連している。本書のねらいはトイレという具体的なテーマを通してSDG'sをわれわれの身近な問題として解いていくことである。第3章 誰一人取り残さない日本のトイレで「子どもとトイレ」について執筆を担当し、SDG'sと「子どもと排泄」、乳幼児期、学童期、教育/保育について詳しく書いた。母子関係におけるコミュニケーションとしての排泄、赤ちゃんはいつからおしっこを知らせるのか、ヒトだけが使うオムツ、保育園のトイレ事情、学校でトイレに行けない子どもたちなど研究成果より紹介した。 全257頁、編集：日本トイレ協会、共著者：足立寛一、川内美彦、村上八千世、他14人 本人担当分：p.184-198 第3章誰一人取り残さない日本のトイレ 5. 子どもとトイレ</p>
<p>(学術論文 (和文)) 1. 子どものトイレ使用における羞恥心と不潔感の発達 (修士論文)</p>	<p>単著</p>	<p>2004年1月</p>	<p>早稲田大学大学院</p>	<p>児童の排泄行動における羞恥心の発達と羞恥心の要因について分析を行った。羞恥心は他児からのからかいが主な原因であり、女兒よりも男児で羞恥心は強く、低学年よりも高学年でやはり強かった。児童は音やニオイが他者に気付かれることを気にして、排泄行為の事実そのものを隠そうとする傾向があった。また幼児期の羞恥心や清潔さに対するこだわりに関する発達はどのように芽生えるのか保育所での観察データから分析を行った結果、幼児期の羞恥心はトイレ空間の環境に大きく影響されることがわかった。ブース化されたトイレでは羞恥心が芽生えやすく、ブース化されていないトイレではおおらかな雰囲気です排泄が行われる傾向があった。 全84頁</p>

<p>2. なぜ小学生は学校のトイレで排便できないのか？</p> <p>【査読あり】</p>	共著	2004年8月	<p>日本学校保健学会学会誌「学校保健研究」第46巻第3号 303-310</p>	<p>前項の修士論文を再編集したもの。学童期の子どもが学校でトイレに行けない原因を調査分析した。児童が学校でトイレに行けない現状を捉えて、何が恥ずかしいのか、どうして恥ずかしいと感じるのか、また恥ずかしさはいつから生じるのかを分析、考察している。恥ずかしさの原因は他者によるからかいやのぞきが影響しているが、その根底には排泄行動そのものに対する価値観などが関係していると考えられ、排尿にはさほど恥ずかしさは感じていないが、排便には大変強い恥ずかしさを感じていた。男児の恥ずかしさは排便に対するものであるが、女児の場合は排泄時の音に対するものが強かった。</p> <p>本人担当部分：共同執筆者は指導教授のため分担明記なし 共著者：村上八千世、根ヶ山光一（303-310頁）</p>
<p>3. 乳幼児のオムツ交換場面における子どもと保育者の対立と調整—家庭と保育所の比較—</p> <p>【査読あり】</p>	共著	2007年12月	<p>日本保育学会学会誌「保育学研究」第45巻第2号19-26</p>	<p>オムツ交換場面の養育者と幼児のやりとりを観察し、幼児がどのような方略を使って養育者からコミュニケーションを引き出しているのか分析した。排泄をめぐるやりとりは子どもと養育者の信頼関係を構築する機会として重要な役割を果たしていることがわかった。子どもはおむつ交換場面を利用して大人をコントロールし、親の関心を引き付ける戦略に利用しており、わざとおむつ交換に抵抗することで親とのやりとりの量を増大させていることがわかった。特に幼児が抵抗を繰り返すことで、親は幼児の身体を捕まえたり、くすぐり遊びを交えながらおむつ交換を遂行しようと試みる傾向があり、幼児は親との身体接触の機会を得ようと確信犯的に抵抗していることが示唆された。</p> <p>19-26頁 本人担当部分：共同執筆者は指導教授のため分担明記なし 共著者：村上八千世、根ヶ山光一（査読あり）</p>

<p>4. 園庭環境による保育者の資質の向上</p> <p>【査読あり】</p>	<p>単著</p>	<p>2013年8月</p>	<p>こども環境学会「子ども環境学研究」第9巻・第2号 61-68</p>	<p>子どもが環境を通してあそびを深めてゆくように、保育者も環境を通して保育のおもしろさややりがいを感じてゆくことがわかった。保育者が自由に作り込んだり、工夫できる園庭環境は保育者の達成感や、協同性をもたらし、その作業で体験した発見や感動は子どもに伝えたいテーマにつながっていた。また畑や田んぼを初めてつくる場合、最初の1年間は何かかもが試行錯誤で大変に感じることの方が多いが、2年目に入ると1年目の経験が生きて、活動そのものに対する考え方が大きく変化し、園庭整備に対する考えが「雑務」的な感覚から「保育に関する不可欠な作業」として認識が変わることがわかった。 61-68頁</p>
<p>(紀要論文)</p> <p>1. 市民学習のプログラム「学校のトイレを気持ちよく使うために考える」が児童に与える教育的効果について</p>	<p>共著</p>	<p>2007年2月</p>	<p>「お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター紀要」第4巻83-94</p>	<p>小学5年生の市民科の授業のプログラムを用いて、児童のトイレ使用意識の変容、社会貢献に対する意識などの変化を調査・分析した。毎日何度も使用する学校のトイレをテーマに5年生が下級生にアンケートを取ったり、トイレの使い方を指導したり、トイレ掃除を体験することを通じて、5年生自身のトイレ使用意識が高くなり、汚さないように使おうとするように変化した。また清掃体験では、下級生から清掃に対する感謝を示されたことがきっかけとなり人に役立つことを積極的に取り組みたいという動機につながっていた。 83-94頁 本人担当部分：共同執筆のため分担明記なし 共著者：村上八千世、酒井朗</p>

<p>2. 保育所におけるトイレ環境のあり方が保育や子どもの発達に与える影響について</p>	<p>共著</p>	<p>2015年2月</p>	<p>常磐短期大学研究紀要 第44号35-42</p>	<p>&lt;調査Ⅰ&gt;では関東圏の保育所のトイレ環境の現状を調査した。0歳児の保育室内に乳児用のトイレがないところは4割以上あり、0歳児はトイレを使う必要を感じていない園が少ないことがわかった。またトイレが近くにないとトイレを使わない保育になり、オマルやオムツに頼ることになってしまい、子どもの主体性を尊重した保育とはかけ離れてしまう。また子どもをトイレに行くように促すことは保育者が一番困難に感じていることであり、トイレが遠いために発生している問題とも考えられる。</p> <p>&lt;調査Ⅱ&gt;では乳児が使いやすいようにトイレを改修した園の調査を行い、子どもがひとりでトイレに座れる時期の変化を調べたところ、改修後のトイレでは5カ月も早くなったことがわかった。トイレ環境の違いで子どもの発達に大きく影響があることを示した。</p> <p>35-42頁 本人担当部分：聴き取りアンケート調査の聴き取り以外は分析、考察、執筆をすべて担当。 共著者：村上八千世、寺田清美</p>
<p>【査読あり】</p>				
<p>3. 排泄行動における恥ずかしさの発達</p>	<p>単著</p>	<p>2017年3月</p>	<p>常磐短期大学研究紀要 第45号23-30</p>	<p>大学生を対象に幼児期から成人に至るまでどのように園や学校で排泄を行う際の羞恥心が変化するのか分析を行った。その結果、恥ずかしさの発達は男女で違った道筋をたどることがわかった。男子は恥ずかしさの要因は対人的な問題であり、他者からのからかいやいじめを避けたいがために排泄を我慢する傾向があるが、小学校の高学年にピークを迎え、中学になると恥ずかしさは治まるが、女子は恥ずかしさの対象が排泄行為の時間的長さや音であり、これは成人しても変わることなく継続することが明らかになり、むしろ音を隠す行為はエチケット化され積極的にますます隠そうとする傾向が認められた。</p> <p>23-30頁</p>
<p>【査読あり】</p>				

<p>4 異年齢保育における対人葛藤場面での介入者の関わり方についてー「お話しテーブル」での葛藤場面よりー</p> <p>【査読あり】</p>	<p>単著</p>	<p>2018年2月</p>	<p>常磐短期大学研究紀要 第46号33-49</p>	<p>3歳から5歳の異年齢保育クラスで幼児の葛藤場面を観察し、幼児が介入者としてどのように関わるのか実態を明らかにした。その結果、各年齢を通して幼児は葛藤の当事者となるよりも介入者として関わる頻度が高く、集団内で葛藤が生じると高い関心を持って見守ったり、積極的に関わったりした。本研究では介入行動の中でも特に「注視・傍観」や「文脈外行動」に焦点を当てた。「注視・傍観」は消極的な方略でありながらも当事者にかなりのストレスを与えており、「文脈外行動」は一見関係のない行動のように思えるが、葛藤を中断させたり、結果をうやむやにする影響力を持っていた。「注視・傍観」は3歳児でよくみられ、言語的に介入することが発達的に難しいためと考えられるが、「文脈外行動」は年齢が上がってもさほど減少せず、言語発達の未熟さによるものではなく、当事者のやり取りを妨害して結果をうやむやにするという意図が働いているとも考えられた。葛藤の当事者両方にダメージを与えないための和解方法として用いていると推察できる。</p> <p>33-49頁</p>
<p>5 「大福もち」のルーツをたどる保育実践ー他園との交流を通じてー</p>	<p>単著</p>	<p>2018年3月</p>	<p>常磐大学教職センター教職実践研究 第2号189-197</p>	<p>普段食べている食べ物がどんな原料からできているのか、その原料はどのように栽培され、加工されているのか食のルーツをたどる実践を幼児向けに保育の中で行うことは可能なのか、またどんな方法が良いのかを調査することが本研究の目的である。「大福もち」のルーツをたどるプロジェクトを立ち上げ実践してみた。大福もちの材料となるもち米、砂糖きび、塩、小豆の栽培や製造から始め、米粉、あんこ、塩への加工を行い、大福もちを調理して食べるという壮大なプロジェクトであったが、複数園でネットワークをつくりながら行うことで、幼稚園や保育園でも十分に取組めることがわかった。またこの取組みによって、幼児が食のルーツに興味を持つとともにその栽培地域の文化や相手園の様子にも関心を持つきっかけとなった。遠く離れた園と園との交流が実現したことを効果として捉える参加園も多かった。</p> <p>189-197頁</p>

<p>6 床の肌触りは幼児の遊びをどのように変化させるか？—カーペットを敷いた事例から—</p>	<p>単著</p>	<p>2021年3月</p>	<p>常磐短期大学研究紀要、第49号1-11</p>	<p>リノリウムの床面とカーペットの床面を設定し、自由遊びの時間に幼児が遊ぶ様子を観察し、床面の肌触りが変化することで子どもの行為や遊びがどのように変化するかを明らかにした。その結果カーペットの条件では座ったり、寝転んだりする時間や頻度の割合が高く、リノリウムの硬い床面条件では立位の割合が高かった。カーペットでは親和的な遊びが展開されるのに対し、リノリウムでは蹴ったり押したりという非親和的な遊びが多く展開された。肌触りのよさが床面に座ったり寝転んだりする行為を誘発すると考えられる。またカーペット床では子どもが一人でやってきてしばらくごろごろしてから、皆のいるスペースへ帰っていく姿なども頻繁に見られた。幼児にインタビューしてみると「寂しいときにごろごろしたくなる」というコメントもあり、柔らかな環境は子どもが自律的に気持ちを慰めたり落ち着かせたりする機能を持っているとも考えられることが示唆された。</p>
<p>7 「人と関わる力」についての一考察</p>	<p>単著</p>	<p>2022年3月</p>	<p>常磐大学教職センター紀要教職実践研究第6号13-26</p>	<p>本稿は3つの視点①「アタッチメント/子別れと『人間関係』」、②「葛藤の介行動に見る『人間関係』」、③「肌触り/身体接触と『人間関係』」から保育を捉え、保育者としての姿勢について考察することを目的としている。  子どもは右肩上がりに順調に発達・自立していくのではなく、いったんできるようになったことでも「できない」と言ってみるなど行ったり来たりしながら自立を遂げてゆく、そのときの大人との距離を巧みにコントロールし、親との身体接触の機会を意図的に増加させたりしながら、自分自身で安心感を確保しながら親から徐々に離れていく。また言葉の発達がまだ十分でない3歳児でも仲間組織の中でのふるまい方を心得ており、年長児がいざこざを起こした時も直接的に仲介したりはしないが、遠くからいざこざの行方を見守ろうとし、それが年長児の葛藤を早く終了させたりする。  そして柔らかな環境は幼児が自身で精神の安定を図るために大変重要な環境であり、柔らかな環境が子ども同士の人間関係にも大きく影響していることがわかっている。</p>

(特殊分野における業績：保育環境の提案)				
1. おおわだ保育園1-2歳児保育室	2005年12月	大阪府門真市	トイレ空間をオープンに保育室に開くことで子どもが主体的にトイレに行けるように考えた。その結果、トイレタイムの質が変化し、保育者は子どもたちを無理にトイレに連れて行かなくても済むことになり、子どもの排泄の自立も6か月早まった。保育者も子どももトイレトレーニングを意識する必要もなくなった。環境を変えることで子どもの行動が変わり、「保育」そのものが変化した事例となった。	
2. おおわだ保育園0歳児トイレ	2006年12月	大阪府門真市	0歳児の保育室の中にトイレ機能を配置した。使用していないときは便器にカバーを被せることで対応した。保育者はオムツを交換しながら、便器に座る子どもを同時に見ることが出来、子どものペースに合わせた保育が可能となった。この時期の子どもは便器に腰掛けながら排泄時の身体の変化に興味関心をもつ。自分の身体と対話することで排泄の自立も早くなる。	
3. キッズタウンにしおおい新園舎（リノベーション）	2007年3月	東京都品川区	0歳児から5歳児までの保育室のトイレ空間を提案した。	
4. おおわだ保育園園庭整備	2008年5月	大阪府門真市	真ん中に大きな広場があり、端に遊具が配置されている保育園に典型的な園庭であったが、真ん中に大きな砂場と築山を配置し、周回できるようにした。また田んぼ、畑、花壇を配置し、保育者がそれぞれを担当して整備する運営上の仕組みも作り上げた。それによって園庭環境の構成方法と保育プログラムを関連付けて考えることができるようになった。	
5. おおわだ保育園3-5歳児保育室	2009年12月	埼玉県さいたま市	3～5歳児の保育室はそれぞれ分かれていたが、トイレ空間や手洗い場を共有することで異年齢が交流しやすいようにした。併せてロフト遊具を提案し、限られた面積の保育室で立体的に子どもが活動できるようにし、絵本コーナー、ごっこコーナー、おやつコーナーも構成した。	

6. 浦和ひなどり保育園 新園舎	2011年3月	埼玉県さいたま市	<p>食べる空間、遊ぶ空間、寝る空間がある程度分化できるようにゾーニングを考えた。0歳児はオープントイレを中心にして一番手間のかかる排泄ケアがスムーズにできるようにし、0歳児保育室と調理室を隣接させることで食事のサポートも容易にできるようにした。2歳児室は独立させて集団化するまでの期間を個々の子どものペースでしっかり遊びこめるようにしつつ、すぐ隣の3-5歳児室との連携が取りやすいように可動の間仕切りで仕切った。3-5歳児は異年齢混合の保育のため大人数で保育がしやすいようにコーナーが作り良いうにレイアウトを考え、和室や積木コーナーも導入した。</p>
7. とりかいひがし保育園 新園舎と園庭	2012年3月	大阪府摂津市	<p>0-1歳児保育室ではトイレを真ん中にする事で0歳と1歳をゾーニングし、両保育室から使いやすいうにしている。0歳児が1歳児の様子を見て排泄の仕方が真似られるようにした。2歳児は保育室とトイレの間に仕切を低くし一体的な空間とし、子どもがトイレにいながらも保育者とアイコンタクトが取れるようにした。3-5歳児は保育室の中心にトイレを配置し、どの年齢からも使えるようにし、なおかつ異年齢で交流できるようにした。室内に大型遊具を配置し、雨天や延長保育の際にも身体機能を使う遊びができるようにした。</p>
8. やまた幼稚園幼児用 トイレ	2013年12月	神奈川県横浜市	<p>閉鎖的なトイレの壁を撤去し、トイレ、廊下、階段下倉庫、ホールを一体的にレイアウトしなおした。その結果単なる通過のためだけであつた空間に絵本コーナー、製作コーナーなどの機能を持たせることができるようになり、クラスの区別のないニュートラルな空間ができた。完全に年齢別に行われていた運営に変化をもたらすことができた。</p>
9. 松原保育園 1階保育 室	2013年3月	東京都昭島市	<p>0～1歳児室と2歳児室に分かれた構成だったが、0歳児室と1～2歳児室に分かれた構成に変更した。1～2歳児が使うトイレコーナーは緩やかに保育室と仕切りながら子どもが主体的にアクセスできるようにした。トイレ空間は保護者も立ち入ることが出来、着替えの補充や汚れものの回収がスムーズにできるようにした。親が送り迎え時に子どもの用を済ませることもできる。玄関とホールは下足のためだけの空間であつたが事務室の一部を取り込むことですべての年齢で共有できる空間に変更し、絵本コーナーを配置した。</p>

10. ひよし保育園新園舎	2015年3月	神奈川県川崎市	各保育室のトイレ空間をレイアウトした。
11. つつじヶ丘保育園0-1歳児保育室	2018年3月	東京都昭島市	0～1歳児室のトイレ、沐浴室、調乳コーナー、保護者の受け渡しコーナーを提案した。調乳コーナーを閉鎖的な空間からオープンカウンターにし、子どもの動きを見ながら食事の準備ができるようにした。受け渡しコーナーには子どもが潜り込める遊具を提案した。
12. 多摩川保育園1-2歳児用トイレ	2019年5月	東京都大田区	1～2歳児用トイレ、3～5歳児用トイレを提案した。 暗くて、寒いトイレであったが、木床を用いることで温かみのある空間へと変化した。 排泄時にオムツを交換する保育者と便器に座る乳児が対面できるようにオムツ交換台の位置を工夫した。
13. おおわだ保育園世田谷豪徳寺新園舎及び園庭	2020年10月	東京都世田谷区	排泄「便育」、食事「食育」、木に親しむ「木育」、火を使う生活「火育」ができるように園舎を企画した。また保育室に加え、縁側や土間などニュートラルな空間を配置することで異年齢の子どもが混じり合っ生活できるようにした。0歳児室にはオープントイレを配置し、排泄の自立がスムーズにいくようにし、調理室はガラス張りにして、縁側から子どもが調理の様子を見たり、調理師とコンタクトが取れるようにした。床材の種類をクラスごとに変え、樹種について親しめるようにした。土間には薪ストーブを配置して薪を燃やしながら火に親しみ、同時に火の怖さが学べるようにした。園庭には乳児でも挑戦的な遊びができるように築山とジャンプ台を組み合わせた。
(受賞(学術賞等))			
1 第1回こども環境学会デザイン賞受賞 (おおわだ保育園1-2歳児のためのオープントイレP00-P00 ROOM)	2006年4月	こども環境学会	排泄空間を保育室側に大きく開くことで排泄援助の在り方が大きく変わった。子どもはトイレに連れていかれるのではなく主体的に行くようになった。保育の質を環境整備と運営の両面から検討し、子どもの排泄の自律について考えるきっかけとなった。 (再掲)
2 第1回キッズデザイン賞建築・空間デザイン部門大賞受賞 (おおわだ保育園1-2歳児のためのオープントイレP00-P00 ROOM)	2007年7月	NPO法人キッズデザイン協議会	排泄空間を保育室側に大きく開くことで排泄援助の在り方が大きく変わった。子どもはトイレに連れていかれるのではなく主体的に行くようになった。保育の質を環境整備と運営の両面から検討し、子どもの排泄の自律について考えるきっかけとなった。 (再掲)

<p>3 第2回キッズデザイン賞受賞（0歳児のためのトイレ イ・ツ・デ・モ Toilet）</p>	<p>2008年7月</p>	<p>NPO法人キッズデザイン協議会</p>	<p>つかまり立ちができるようになった幼児はトイレで用を足すことは十分可能であるが、0歳児の保育室にトイレを設置していない園は少なくない。離れたトイレに子どもを連れて行くと室内に残る乳児からは目を話すことになり安全ではない。そのような問題を解決するために室内に設置して子どもが主体的にトイレにアクセスできるトイレユニットを考案した。 （再掲）</p>
<p>4 第5回キッズデザイン賞受賞（3-5歳児のためのオープントイレ）</p>	<p>2011年8月</p>	<p>NPO法人キッズデザイン協議会</p>	<p>これまでのトイレの概念を覆し、トイレブースが保育室の中に点在するプランを提案した。点在させることで空間全体に凹凸コーナーができ、ごっこ遊びのコーナーや絵本コーナー等の設定が容易になった。 （再掲）</p>
<p>5 こども環境学会2011年度集会優秀ポスター発表賞受賞（園庭づくりで「保育」を考える）</p>	<p>2011年12月</p>	<p>こども環境学会2011年度集会</p>	<p>園庭を保育士自身で作りにゆくことによって、保育スキルや、保育に対するモチベーションがどう変容するかを分析した研究。保育士は本来の「保育」業務の枠外にある農作業や築山整備作業などを行う事に最初はストレスを感じるが、後にはそれらの作業から得た経験が保育をする場面に生きていることを認識し、積極的に取り組むことで充実感を感じるように変化することがわかった。 （再掲）</p>
<p>6 第7回こども環境学会デザイン賞奨励賞（3-5歳児のためのプレイスペース）</p>	<p>2013年4月</p>	<p>こども環境学会</p>	<p>これまでのトイレの概念を覆し、トイレブースが保育室の中に点在するプランを提案した。点在させることで空間全体に凹凸コーナーができ、ごっこ遊びのコーナーや絵本コーナー等の設定が容易になった。 （再掲）</p>
<p>7 第16回キッズデザイン賞受賞（子どもの感性をひらく調和ある保育園）</p>	<p>2022年7月</p>	<p>NPO法人キッズデザイン協議会</p>	<p>世田谷区の住宅街に建設された保育園。狭い敷地条件でありながら、食べる、寝る、排泄するをテーマに、子どもの感性に働きかける工夫を盛り込んだ園舎。火に親しみ、雨水を使って遊び、木をふんだんに使い、金属板の壁と磁石で創造的に遊び、屋上では菜園を計画し、日と影が感じられる空間で五感を使って生活できる園舎になった。</p>

<p>(その他：ウェブ連載)</p> <p>1 ウェブ子育てカフェ 子育てコラム連載</p>	<p>単著</p>	<p>2017年12月～ 2019年8月</p>	<p>小学館集英社プロダクション <a href="https://kosodatecafe.jp/column/">https://kosodatecafe.jp/column/</a></p>	<p>子育て中のお母さんを対象にコラムを連載。子どもの排泄を心理学的な視点で取り上げている。乳児にとっての排泄物の意味、排泄物がコミュニケーションのツールとなっていること、ヒトしか使わないオムツについて、トイレトレーニングの必要性について、親の子どもの排泄物に対する嫌悪感について、日本の保育所のトイレ事情、子どもが主体的に使えるトイレがあることで自律が早くなること、トイレ環境によって保育そのものが変化すること、排泄に対する羞恥心の発達について、排泄物と健康状態について、「便育」についてなど書いた。</p> <p>全32回。 約40,000字</p>
<p>(その他：絵本など)</p> <p>1 うんこのえほん うんぴ・うんによ・ うんち・うんご</p> <p>2 総合学習トイレから 考えよう！環境編</p> <p>3 総合学習トイレから 考えよう！心と健康 編</p>	<p>単著</p> <p>共著</p> <p>共著</p>	<p>2000年10月</p> <p>2001年4月</p> <p>2001年4月</p>	<p>ほるぷ出版</p> <p>ほるぷ出版</p> <p>ほるぷ出版</p>	<p>排泄教育、排泄の大切さを子どもたちに伝える絵本 大便の状態を色、形、ニオイから4つのスケールで示し、それぞれにネーミングしている。ネーミングすることで幼児でも便と健康の関係が理解しやすくなり、食生活への関心へと結びついている。またネーミングによって子どもと養育者で便の様子について情報を共有しやすくなり、コミュニケーションがスムーズになった。</p> <p>全33頁 共著者：村上八千世、せべまさゆき（イラスト） 本人担当分：文全て</p> <p>106,500部</p> <p>小学生向け総合学習の教材。トイレをきっかけに水資源の循環、世界の貧困の差などを紹介。 全40頁。編者/共著者：村上八千世、浅井佐知子、木村理恵 本人担当分：全頁</p> <p>4,700部</p> <p>小学生向け総合学習の教材。トイレをきっかけに水資源の循環、世界の貧困の差などを紹介。 全40頁。編者/共著者：村上八千世、浅井佐知子、木村理恵 本人担当分：P6-7, P12-13, P16-17 P26-29</p> <p>3,500部</p>

4 総合学習トイレから 考えよう！バリアフ リー編	共著	2001年4月	ほるぷ出版	小学生向け総合学習の教材。トイレ をきっかけに障がいを持った人への 理解を深める。 全40頁。編者/共著者：村上八千世、 浅井佐知子、木村理恵 本人担当分：P6-13  3,500部
5 うんこのえほん うんこダスマン	単著	2001年11月	ほるぷ出版	排泄教育、生活習慣と排泄の関係を 子どもたちに伝える絵本 快便にな るための生活習慣を5つの術に例えて 表現している。便は食べ物だけでな く生活習慣全体と関わっていること を伝えている。 全33頁 共著者：村上八千世、せべ まさゆき（イラスト） 本人担当分：文全て
6 うんこのえほん がっこうでトイレに いけるかな？	単著	2004年8月	ほるぷ出版	46,000部 排泄教育、和式トイレに慣れない子 どもたちへの使い方の説明 家庭で は洋式便器に使い慣れている子ども たちは学校に進学したときに和式便 器が使えないケースがある。そのた めに事前に絵本によって和式便器の 使い方をおさらいできるようになっ ている。子どもが入学後慣れない環 境であわてなくてもよいようにする ものである。 全33頁 共著者：村上八千世、せべ まさゆき（イラスト） 本人担当分：文全て
7 大型絵本 うんこの えほん うんぴ・う んにょ・うんち・う んご	単著	2007年9月	ほるぷ出版	9,800部 前掲の「うんこのえほん うんぴ・ うんにょ・うんち・うんご」の大型 版
8 大型絵本 うんこの えほん うんこダス マン	単著	2007年9月	ほるぷ出版	2,500部 前掲の「うんこのえほん うんこダ スマン」の大型版
9 大型絵本 うんこの えほん がっこうで トイレにいけるか な？	単著	2007年9月	ほるぷ出版	2,800部 前掲の「うんこのえほん がっこう でトイレにいけるかな？」の大型版

10 うんこダスマンたいそう！	単著	2008年12月	ほるぷ出版	<p>「便育」をテーマに制作した絵本。排便を促すための体操を歌に合わせて考案している。CDとして収録し保育園や幼稚園で園児が歌に合わせて体操できるようにした。 全33頁 共著者：村上八千世、せべまさゆき(イラスト)、岡本拓子(作曲) 本人担当分：作詞と体操の振り付け</p> <p>12,500部</p>
11 ぶりっぺ・すかっぺ	単著	2012年7月	ほるぷ出版	<p>「便育」をテーマに制作した絵本。おならの音やにおいについて取り上げた本、食べ物とおならの種類は関係していることを開設した絵本。どんなときにどんなおならが出るかを理解して、自分自身の生活に照らし合わせるができるように工夫した。 全33頁 共著者：村上八千世、せべまさゆき(イラスト) 本人担当分：文全て</p> <p>8,000部</p>
(その他：依頼原稿)				
1 楽しく教えてタブーを取り除く うんこの授業	単著	2006年6月	小五教育技術第55巻第4号, 小学館, 84-89頁	<p>小学校における排泄教育の指導方法について解説。 学校現場ですぐに活用できる指導方法を実践例を交えて解説している。</p>
2 子どもの排泄観とトイレ環境	単著	2007年2月	日本家政学会誌 58(2), 107-108,	<p>保育現場における排泄環境と子どもの発達についての関係を解説。不潔で危険な環境では保育士の子どもに対する声掛けは規制的になり、清潔で安全なトイレでは子どもの主体性を尊重する声掛けになる。環境によって保育の質が変わり、子どもの発達にも影響を与えていることを示唆している。</p>
3 保育の中の遊び「遊びのしかけを考える」	単著	2010年4月	発達第31巻第122号, ミネルヴァ書房, 35-41頁	<p>保育士が園庭づくりに取り組むことで遊びの仕掛け方について習得し、保育士として自信を深めてゆくことについて中間報告している。最初は訳も分からず混乱状態の中で園庭づくりに関わっていくが、その段階での苦労や、植物の成長に対する喜びが「保育」を行う上での自信ややりがいの源になっていることがわかった。</p>

4 学校をめぐる問題と対応(4)まじめなうんこ学校の話	単著	2011年2月	子どもの心と学校臨床(4), 遠見書房, 125-134頁	幼児から児童をとりまく排泄の問題と心理について執筆。「排泄」とは単に廃棄物を体外に出すという機能だけでなく、「排泄」をめぐる養育者と子どもの間でやりとりされる行為が心理的に大きな意味を持っていること、また子どもが「排泄」の健康上の意味を知ることによって過度な羞恥心が抑えられることを解説
5 子どもとトイレとうんこ	単著	2015年2月	小児看護2月号, へるす出版, 210-211頁	乳児期の子どもにとって、排泄をめぐる養育者とのやりとりには特別な意味がある。それは養育者にとって子どものオムツ交換やパンツをはかせるという行為が後回しにできない問題であるからである。汚れたままでは子どもの健康や衛生面に關わるため、養育者は何が何でもオムツを交換し、パンツを速やかにはかせたいと考える。さらにそのような手間から早く解放されたいとも願っている。それを逆手にとって子どもはパンツを履くまいと抵抗する。それらのやりとりは子どもが確信犯的に仕掛けているともいえる。 210-211頁
6 こどもとうんこ どう伝える?—結果が読めれば原因に關心が向く—	単著	2016年10月	臨床栄養 Vol. 129 No. 5 医歯薬出版 694-696頁	教員や医療従事者が幼児を対象に排泄に関する教育を行う際のポイントをまとめたもの。
7 心地よいトイレタイムにするために	単著	2019年5月	ほけんニュース5月号 少年写真新聞社	保育園のトイレを快適に使用するために気をつけたいポイントをまとめた。 ハード面、子どもの主体性、家庭で気をつけたいことのそれぞれの視点から執筆を行った。
8 保育を変える幼児トイレのデザイン	単著	2019年12月	こども環境学研究 Vol. 15, No3(44号) こども環境学会	こども環境学会学会賞設立15周年記念としての寄稿。 第1回デザイン賞受賞者として、幼児用トイレのデザインに関するコメントを寄せた。
9 第1回子どもとトイレ勉強会レポート 今、学校トイレはどうなっているの?	単著	2022年7月	トイレ協会ニュース 22-2号 一般社団法人日本トイレ協会	2022年3月に開催した第1回子どもトイレ勉強会の講座内容をレポートしたもの。学校では大便器の洋式化が57%、車いすトイレは一つもない学校がまだまだある状態であり、感染症対策として、床の乾式化も推奨されている。近年性的マイノリティへの配慮としてトイレの配置が工夫され、利用者が状況に合わせて選択できることが整備のポイントになっている。

(その他：報告書)				
1. 対人関係の基盤としての「身体接触」に関する生涯発達行動学的検討	共著	2007年12月	平成16～18年度科学研究費補助金研究成果報告書	乳幼児と養育者がオムツ交換場面で 行うやり取りの中で起こる身体接触 の意味について考察した。 共著者：根ヶ山光一、大藪泰、河原紀 子、村上八千世、他 本人担当部分：乳幼児のオムツ交換 場面における子どもと保育者の対立 と調整にみる身体接触 61-67頁
2. 明日の保育が変わる！！園内研修2013 解説書	共著	2013年6月	文部科学省科学研究費基盤研究 (C) (課題番号 22530883)	民営化や新設園が増加している現状 で、保育園現場では園内研修に熱い 視線が注がれている。時間的に制約 のある保育園では短い時間でいかに 充実した研修を行えるかが各園の創 意工夫にかかっているからである。 講師による講義や、事例検討会、 ワークショップなど様々な研修が行 われているが日頃の保育実践にその 成果はなかなか活かされていないと いう現実もある。そこで職員が主体 的に取り組むことが出来、保育の質 を高めることができる園内研修の方 法について事例を集め検討した結果 を冊子とDVDにまとめて紹介した。 全23頁 共著者：汐見稔幸、松永静子、村上 博文、保坂佳一、村上八千世、金田 利子、井上恵子 本人担当部分：共同研究のため担当 部部分は抽出不可能
3. 明日の保育が変わる！！園内研修2013 DVD	共著	2013年6月	文部科学省科学研究費基盤研究 (C) (課題番号 22530883)	上記冊子の事例の実践園の保育士、 園長にインタビューを行い、生の声 と成果についてDVDにまとめた。 共著者：汐見稔幸、松永静子、村上 博文、保坂佳一、村上八千世、金田 利子、井上恵子 本人担当部分：共同研究のため担当 部部分は抽出不可能
4. 中国のトイレ革命について —北京でのトイレ文 化講座に招かれて—	共著	2019年8月	トイレ談義 一般社団法人日本ト イレ協会	2018年7月に北京の国際公益学院に招 聘され行った講演内容を帰国後に座 談会で報告した内容をまとめたも の。 村上是幼児施設のトイレ環境と教育 について講演を行い、日本の保育園 のトイレ環境の現状と幼児の排泄行 動における動向について話した。 また中国の幼児教育施設が抱えてい るトイレに関する課題に対してコメ ントを行った。文化や思想の違いに よって恥ずかしさやモラルに関する 考え方が日本とは異なることが印象 深かったことを報告した。  全26頁。共同執筆者：高橋志保彦、 小林純子、村上八千世  本人担当部分：座談会形式でまとめ ているので担当部分の抽出不可

<p>(国内学会発表)</p> <p>1. 子どものトイレ行動に見るからかい行動・羞恥心の発達</p>	<p>共著</p>	<p>2004年3月</p>	<p>日本発達心理学会第15回大会発表論文集、213、白百合女子大学</p>	<p>児童期の子どものトイレ行動で羞恥心がどのように発達してゆくかを分析した。          女兒より男児は排便時に恥ずかしさを感じており、その恥ずかしさは対人的な理由からであった。排泄に関する恥ずかしさは高学年以降に顕著になり、低学年時と逆転する。恥ずかしさが顕著になる時期は男児より女兒が早かった。また男児は排便時に恥ずかしさを感じるのに対し、女兒は排泄の音に恥ずかしさを感じていた。          共同発表者：村上八千世、根ヶ山光一          本人担当部分：根ヶ山は指導教授のため分担明記なし</p>
<p>2. 乳幼児のオムツ交換場面における子と保育者の対立と調整～保育園と家庭の比較より～</p>	<p>共著</p>	<p>2007年3月</p>	<p>日本発達心理学会第18回大会発表論文集、361、大宮ソニックシティ</p>	<p>オムツ交換場面で起こる子と養育者のやり取りを保育園と家庭の両方で観察し比較を行った。オムツ交換をめぐって子どもは養育者から身体接触などのコミュニケーションを引き出そうと様々な抵抗を試みる。それに対して養育者は、怒ったり、脅したり、くすぐったりと遊びや言い聞かせなどで対応し、子どもの抵抗が長引くほど、身体接触的な方策を使ってオムツ交換を成し遂げようとするのがわかった。また保育園より家庭ではそのための方略が豊かであることがわかった。          共同発表者：村上八千世、根ヶ山光一          本人担当部分：根ヶ山は指導教授のため分担明記なし</p>
<p>3. 乳児のためのトイレプランニングにおける考察</p>	<p>共著</p>	<p>2007年4月</p>	<p>こども環境学会2007年大会論文集、71、横浜市開港記念会館</p>	<p>子どもがひとりでトイレに行って便器に座れるようになる時期が排泄環境の違いによってどのように変化するかを分析した。          その結果、トイレ空間をオープンにして幼児が主体的にトイレにアクセスできる環境では、そうでない環境と比べて子どもが一人で便器に座れる時期が6か月早くなることがわかった。また子どもが主体的にトイレにアクセスできる環境では保育者がトイレトレーニングを意識しなくても子どもの排泄の自立が進むことがわかった。          本人担当部分：共同執筆のため分担明記なし 共同発表者：村上八千世、馬場耕一郎</p>

4. 園環境づくりへの参加による保育士の変化	共著	2007年5月	日本保育学会第60回大会発表論文集、1188-1189、十文字学園女子大学	<p>保育園の園環境をめぐる保育士の意識の変化について分析した。一般的に保育園のトイレは保育室と完全に区画されていたり、保育室から離れた場所にある。そのような環境で日常的に保育を行う保育者はその点に疑問を持つことは少ない。「保育者は子どもをトイレに連れて行くもの」という考えがあたりまえとなっている。しかし、子どもが主体的にトイレに行ける空間に変えることで今まで苦勞して子どもをトイレに促していたことが不要となる。環境が変わることで子どもが変わることに気づき、「環境を通した保育」の意味を体感することができた。</p> <p>本人担当部分：考察 共同発表者：岡本拓子・村上八千世・馬場耕一郎・本田美佐枝</p>
5. 保育園は子どもの宇宙だ！(1) トイレが変われば保育も変わるー	共著	2007年5月	日本保育学会第60回大会発表論文集、1190-1191、十文字学園女子大学	<p>保育園の排せつ環境の変化がもたらす保育の質の変化について分析した。</p> <p>保育園におけるトイレ空間は汚染区域として保育室と明確に区画される場合が一般的であるが、子どもの発達面から考えると、保育室と一続きになって、常に保育者とアイコンタクトが取れる空間構成で子どもの主体性を尊重することができる。また主体的に子どもがトイレにアクセスできる環境では排泄の自立も早くなる。</p> <p>本人担当部分：共同執筆のため分担明記なし 共同発表者：村上八千世・馬場耕一郎・岡本拓子・本田美佐枝</p>
6. 保育園は子どもの宇宙だ！(2) トイレが変われば子どもも変わるー	共著	2007年5月	日本保育学会第60回大会発表論文集、1192-1193、十文字学園女子大学	<p>保育園の排せつ環境の変化がもたらす子どもの変化について分析。「子どもが連れて行かれるトイレ空間」では子どもはトイレに行くのを嫌がり、保育士は無理に連れて行こうと苦慮していた。「子どもが主体的に行けるトイレ空間」では子どもは自分のペースでトイレに長く留まったり、一瞬で帰ってきたりと様々であり、子どもが自分の身体と心行くまで対話することができる。</p> <p>本人担当部分：共同執筆のため分担明記なし 共同発表者：村上八千世・馬場耕一郎・岡本拓子・本田美佐枝</p>
7. パブリックトイレにおける子育てバリアフリーー学生によるアンケート調査よりー	共著	2007年11月	第3回環境福祉学会年次大会、20-21、名古屋市会館	<p>子育てしている人にとって外出先のトイレに求める機能は何か、またどの程度バリアフリー化されているのかをアンケート調査によって分析した。</p> <p>本人担当部分：データ分析と考察 共同発表者：寺田清美・村上八千世</p>

8. 保育園環境を食と排泄から考える	共著	2008年5月	日本保育学会第61回大会発表論文集、名古屋市立大学	食環境と排せつ環境のそれぞれが保育に与える影響についての議論を自主シンポで行った。 本人担当部分：排せつ環境について 共同発表者：寺田清美・ <u>村上八千世</u> ・馬場耕一郎
9. 子どもの事故：その心理と行動	共著	2009年3月	日本発達心理学会第21回大会発表論文集、日本女子大学	沖縄の離島と所沢の子どもの事故の発生率と内容を分析し、都市部と僻地の傾向を分析した。離島と都市部ではケガに対する養育者の認識が異なり、離島では小さなけがはケガとして捉えていないが、都市部では少しのケガでもすぐに受診する。一方で離島では重篤な怪我が多く、都市部では軽度なケガが多いことがわかった。ケガの発生数の割合に与えている文化背景や保護者の考え方の違いが浮き彫りになった。  本人分担部分：データ分析と考察 共同発表者：根ヶ山光一、大内康裕、 <u>村上八千世</u> 、西田佳史、杉本裕、繁多進
10. 保育所における排泄環境の現状	共著	2009年5月	日本保育学会第62回大会発表論文集、167、千葉大学	東日本の保育園の排せつ環境のあり方について聴き取り調査を行い分析した。 園舎内におけるトイレの配置、年齢ごとのトイレの有無、トイレ空間の仕様について調べた。 0歳児保育室内に乳児のためのトイレ機能がない園も少なくないことがわかり、そのような園ではオマルを使用するかオムツによる排泄を行っていた。トイレ機能がある園と比べて子どもの排泄の自立に差が出ることは必至である。  共同発表者： <u>村上八千世</u> ・寺田清美 本人担当部分：分析と考察

<p>11. 園庭づくりで保育を考える</p>	<p>共著</p>	<p>2011年4月 (震災の影響で集会は12月に実施)</p>	<p>こども環境学会2011年大会論文集</p>	<p>保育園の園環境をめぐる保育士の意識の変化について分析した。園庭環境を整備する際に、畑、田んぼ、築山、砂場、草花とテーマを分けて、希望するテーマをグループで担当することにした。グループは日常保育を行うクラスとは異なり、クラスを超えた職員の交流が生まれた。園庭整備は直接子どもと接するということではなく、子どもが遊ぶためのむしろ「裏方」的な準備作業である。保育士の中にはそれが雑用のように感じる人も当初はいたが、年間を通して作業を行ううちにその作業が保育の重要な部分であることに気付いていく。</p> <p>【12月の大会で優秀ポスター発表賞を受賞している。】</p> <p>共同発表者：村上八千世・馬場耕一郎・佐藤智穂 本人担当部分：全て</p>
<p>12. 保育士として保育がおもしろくなる時—園庭づくりを通して—</p>	<p>共著</p>	<p>2012年5月</p>	<p>日本保育学会第65回大会発表要旨集, 756頁 (東京家政大学)</p>	<p>先の研究「園庭づくりで保育を考える」の継続研究。園庭づくりのチームはクラスの枠を越えたメンバーで編成され、それが園全体のチームワークの強化につながっていることがわかった。また保育士としてのやりがいを継続させるためには園内の人間関係の良好さが前提となっているが、園庭づくりにおける共同作業は園内の人間関係を良好にし、連帯感を高めることがわかった。</p> <p>共同発表者：村上八千世・馬場耕一郎 本人担当部分：全部</p>

<p>13. 保育環境のしかけ —引き起こされる子 どもの行動— テーブル・座卓・床—</p>	<p>単著</p>	<p>2014年5月</p>	<p>日本保育学会第67回大会発表要旨集, 754頁 (大阪総合保育大学・大阪城南女子短期大学)</p>	<p>保育室の環境を設定する際、そこで子どもたちにどんな遊びをして欲しいかということは比較的よく考えられることであるが、そもそも環境によって子ども側に引き起こされる行動というものがあるのではないだろうかと考えた。そこで本研究では保育室内の環境を「テーブルとイス」「座卓」「床」という3つの場の視点で捉えてみることにした。場の設定状況によって子どもがアフォードされやすい行動があり、固体同士の親密性が高まりやすい場、個々の集中力が高まりやすい場など特徴が明らかになった。そういった環境の特性を保育者が理解することでより効果的な保育環境の設定を行うことができるのではないだろうか。</p>
<p>14. 保育の質を高める自立的な園内研修・1</p>	<p>共著</p>	<p>2014年5月</p>	<p>日本保育学会第67回大会発表要旨集, 754頁 (大阪総合保育大学・大阪城南女子短期大学)</p>	<p>保育の質を高める園内研修をテーマに、これまで多様な研修方法の開発を試みてきた。その中でも映像型の研修に特に着目してきた。映像型研修は門田らによる2010年日本版SICS導入における現状と課題 (2012兵庫県立大学) が報告され、中坪らの共同研究 (『発達』vol1134) が紹介されており、映像研修の効果が分析、検証されている。また本研究では保育者が外部講師に依らない自立的な園内研修の方法の開発をアクションリサーチ的な手法で試みてきた。今回は保育所の経験の浅い保育士の自立的な園内研修としての映像研修をさらに分析しその結果を報告した。</p> <p>共同発表者：松永静子・村上博文・保坂佳一・村上八千世・汐見稔幸 本人担当部分：共同執筆のため分担当明記なし</p>

15. 保育の質を高める自立的な園内研修・2	共著	2014年5月	日本保育学会第67回大会発表要旨集, 109頁 (大阪総合保育大学・大阪城南女子短期大学)	<p>本研究ではアクションリサーチ的な手法を採用して、各保育所が外部講師によらない「自立(律)」的な園内研修の方法を開発するという点である。それは、保育者自身が研修を通じて保育実践を振り返り、そこでの気づきや発見を日々の実践につなげるというプロセスを大切にするものである。</p> <p>これまでの研究を通じて、保育を振り返るために映像メディアが研修のツールとして有効であることに気づいた。例えば、園内研修において動画を採用する園とエピソード記録を使う園では、保育を振り返るという点では同じであっても研修の進め方等に違いがあるように思える。そこでメディアツールという視点から、改めて園内研修の性格と課題について探った。</p>
16. 幼児の「話し合い」における「折り合い」の付け方 「お話しテーブル」を設置することの意味	単著	2015年3月	日本発達心理学会第26回大会論文集, 東京大学本郷キャンパス	<p>U保育園では、3～5歳児が同じ部屋で生活する異年齢保育を行っている。その部屋の一角には「お話しテーブル」という、テーブルとイスで構成されたコーナーがある。子どもたちの間で、いざこざやケンカが起こると当事者の子ども達が自主的に、または保育者に促されて、「お話しテーブル」に移動して話し合いを行っている。「話し合い」の様子は様々で、当事者の子ども達だけで行われる場合や、仲裁役の子ども達が入れ替わり立ち代わり訪れる場合などがあり、当事者だけでなく、第三者的な子どものかかわりが重要な役割を果たしていることがわかった。</p>
17. 保育づくり・園づくりの中心的な担い手の役割と資質に関する研究 I	共著	2015年5月	日本保育学会第67回大会発表要旨集 p. 65 椋山女学園大学	<p>保育の質を高めるためには各園の中心的担い手が、専門性を高める自覚をもち、その中心になるという役割意識をもつことである。待機児対策として増設された新設保育園では、担い手となる園長が他業種から転換した者も少なくなく、保育実践のあり方については初歩から模索している現状が本調査で浮き彫りになった。</p>

共同発表者：松永静子・村上博文・村上八千世・保坂佳一・汐見稔幸  
本人担当部分：共同執筆のため分担明記なし

共同発表者：◎村上博文、松永静子、汐見稔幸、保坂佳一、村上八千世  
本人担当部分：共同執筆のため分担明記なし

18. 保育づくり・園づくりの中心的な担い手の役割と資質に関する研究Ⅱ	共著	2015年5月	日本保育学会第68回大会発表要旨集 p. 66 椋山女学園大学	<p>保育の質を向上させるためには、保育者が安定して働ける環境が必要である。保育士不足を鑑み、離職者をくいとめるためにも、若手保育者の育成は現場でも重要な課題である。その点からも保育づくり・園づくりの担い手としての役割等を明らかにしていくことを目的とした研究である。</p> <p>本人担当部分：共同執筆のため分担明記なし 共同発表者：◎松永静子、村上博文、汐見稔幸、保坂佳一、村上八千世</p>
19. 異年齢混合保育における葛藤解決場面の集団の役割と社会性の発達 ～お話しテーブルでのやりとりをめぐって～	単著	2016年5月	日本保育学会第69回大会発表要旨集 東京学芸大学	<p>子どもの葛藤解決場面における研究は、葛藤の当事者に焦点を当てている研究が多いが、子どものいざこざはその当事者だけが存在する空間で起こっているとは限らない。むしろ多くの場合は周囲にたくさんのクラスメイトなどが取り巻いている状況の中で起こっており、当事者以外の行動が少なからず影響していると考えるのが自然である。</p> <p>本研究では葛藤の当事者だけでなく、葛藤が生じている集団全体に焦点をあて、取り巻く側の子どもたちの役割について年齢発達を明らかにすることを目的とし、お話しテーブルで話し合いを20件の事例から分析した。特に3歳児は言語発達も未熟で傍観、抱き着きなどノンバーバルな関わり方が目立つが、集団の一員として話の成り行きに関心を向けていることなどがわかった。</p>
20 床面の肌理の違いによる身体接触の現れ方 —3～5歳児のじゃれつき遊びから—	単著	2017年3月	発達心理学会第28回大会論文集、広島国際会議場・JMSアステールプラザ・広島市文化交流会館	<p>身体は環境からのアフォーダンスによって、多様に反応を変化させる。床面の肌理が柔らかくなると（肌触りが良くなると）、床面に接触する頻度が増える。床面のの気持ちよさそうな感じは子どもに寝転ぶようにアフォードし、その寝転がった身体を他児が見ることで、他児も寝転がりたくなるという連鎖が起こる。子ども同士の身体接触が増えることで展開される遊びの質が変化し、子ども同士の関係性にも影響を与えていることがわかった。硬い床面では子どもたちが床に座ったり寝転んだりすることは稀であり、互いの身体が触れ合う場合も手先や足先が他児の身体に触れるにとどまり、戦いごっこの出現も多いが、柔らかい床面では、子どもたちは寝転んだり、座り込むことが多くなり、子ども同士の身体の体幹と体幹が触れ合う遊びが多くみられるようになる。攻撃的な遊びは減少し、くつろぐような遊びが多くなることがわかった。</p>

21 乳幼児期の母親の声掛けと子どもの排せつ行動	単著	2017年5月	日本保育学会第70回大会発表要旨集 川崎医療福祉大学	オムツを卒業した後にオムツ帰りのあった子どもの割合は約1割であり、7割の母親は子どもの排泄時に肯定的な声掛けをしていた。7割の母親は子どもの排泄（排泄物）に対して「うれしい」と感じており、2～3割が「汚い」と感じていることがわかった。本調査では、母親の声掛けと子どものオムツ帰りの間には有意な関係性は認められなかったが、さらにインタビュー調査などを重ねることによってオムツ帰りの割合に影響を与える要因が見えてくる可能性がある。
22 保育づくり・園づくりの中心的な担い手の役割と資質1 一昭和の時代を担ってきた方々へのインタビュー調査から	共著	2018年5月	日本保育学会第71回大会発表要旨集 宮城女子大学	昭和の時代を担ってきた著名なりリーダーたちを対象にインタビューを行い分析した。保育の職に就いたきっかけは戦後示された児童福祉施設最低基準が、子どもの実態に合わないという問題から現場を変えたいという社会的な役割意識を高く持っていたことであった。またこれまでの重点課題は保育と同様に保護者支援に力を入れてきたことであった。とはいえリーダーによってさまざまな課題を抱えていることも分かった。 共同執筆者：松永 静子、村上 博文、保坂 佳一、村上八千世、須藤麻紀、鬼頭英里、汐見 稔幸 本人担当分：共同研究のため担当部分の抽出不可)
23 保育づくり・園づくりの担い手の役割と資質2 一異業種からの転職者へのインタビューから一	共著	2018年5月	日本保育学会第71回大会発表要旨集 宮城女子大学	異業種から保育の世界に転職した担い手は前職での経験の生かし方によって特徴があった。しかし各園の担い手に共通しているのは、園運営における保育の質と経営、人材確保の両立という課題に対して、前職での経験を積極的に生かしている点であった。例えば保険会社からの転職で保育業界に入った園長は保育業界は他業界に比べ、運営や人材確保が困難ではないと感じており、運営の質の向上のためには研修が重要であるという認識を前職の経験を通してもっていた。前職の経験が保育を外側からみる視点になったり、新たなアイデアを生み出すことにつながったりしていた。 共同発表者：村上博文、松永静子、保坂佳一、村上八千世、須藤麻紀、鬼頭英里、汐見稔幸 本人担当部分：共同研究により担当部分の抽出不可能)

24 新制度時代を担う保育づくり・園づくりの担うリーダーのタイプと課題～経営と保育の質向上の両立を目指して～	共著	2019年5月	日本保育学会第72回大会発表要旨集 大妻女子大学	<p>本研究では、各園の担い手が、経営と保育の質向上の両立に向けてどのような努力をしているのか明らかにする。とりわけ、今回注目したのは他職種経験のある担い手である。園づくりや保育づくりへのかかわり方は様々であり、整理すると4つの象限に分かれた。Ⅰ象限は、園の数を増やすなど規模を拡大するタイプ。Ⅱ象限もⅠと同様に、経営面に力を入れるタイプであるが、Ⅰと異なるのは、経営の規模をできるかぎり小さくしようとしている点である。Ⅲ象限は、保育にかかわる一方で、できるかぎり経営の規模を拡大しないように配慮しているタイプ。Ⅳ象限は、Ⅲと同じく保育に積極的にかかわりながら、経営の規模も拡大していこうとするタイプであった。</p> <p>共同発表者：村上博文、松永静子、保坂佳一、村上八千世、須藤麻紀、鬼頭英里 本人担当部分：共同研究により担当部分の抽出不可能)</p>
25 床の硬さ/柔らかさは幼児の遊びをどのように変えるか	単著	2020年3月	日本発達心理学会第31回大会論文集、大阪国際会議場(グランキューブ大阪)	<p>リノリウムの床とカーペット条件の床で滞在時間中の子どもの姿勢がどのようなであったかを分析を行った。結果は男女ともリノリウムの床の時には「立位」の割合が多かったが、カーペット条件になると「座位」や「臥位」の割合が増えた。カーペット条件では座ったり、寝転んだりすることで滞在時間も長くなり、子ども同士の身体接触も多く、身体の末端よりは体幹に触れる割合が増えた。リノリウム条件では戦いごっこなど攻撃的な遊びが展開しやすいが、カーペット条件では、じゃれつき遊び等が増加した。</p> <p>本研究は2017年度発達心理学会で発表した「床面の肌理の違いによる身体接触の現れ方—3～5歳児のじゃれつき遊びから—」の継続研究である。</p>
26 床面の硬さ/柔らかさは幼児の遊びをどのように変えるか—床にカーペットを敷いてみると—	単独	2021年5月	日本保育学会第74回大会発表論文集	<p>本研究は2020年に日本発達心理学会で発表した内容の継続研究である。柔らかな環境は幼児が自身で寂しさを克服し、慰めが必要な時に、ごろごろすることで自身を安定させ、気分を新たに切り替える機能を持っている。柔らかな環境を設定することは、幼児が自分自身で不安定な情緒をコントロールするうえでも重要なよりどころとなっている。</p>

27 絵本ワークショップ	共同	2021年11月	第1回日本うんこ文化学会	幼児から大人まで、排泄教育を行うことの重要性を伝え、具体的にどのような手法があるのかを講演し、実際に行ってみた。 共同発表者：きたがわめぐみ（絵本作家）
28 モノに支配される乳児の排泄 —「おむつ」に頼らないと子どもの排泄発達が早くなるのはなぜか？—	共同	2023年3月	第34回日本発達心理学会、立命館大学大阪いばらきキャンパス	共感的にかかわることで子どもの排泄発達が進むのはなぜか、共感的な排泄支援によって母親や保育士はどのように変わるのかについて議論した。共同発表者：和田智代、根ヶ山光一、外山紀子
29 乳児期の排泄支援が子どもの発達を変える	単著	2023年5月	第76回日本保育学会、大会発表論文集	現在、保育園ではどのような排泄支援を行っていて、いつごろ排泄の自立を果たすのかを明らかにするとともに、どのような支援が排泄の自立を早め、どのような支援が自立を遅くするのかを調査することが本研究の目的である
(その他： インタビュー・取材記事)				
1. 和式トイレ就学前に練習		2019年2月	読売新聞	家庭生活では洋式便器が普及している一方で学校施設はまだまだ和式便器の割合が多く、入学しても子どもが困らないように指導の必要性を唱えた。
2. うんちを知る「便育」「毎日見てほしい」		2019年6月	朝日新聞および朝日新聞デジタル	長崎での講演内容が紙面で紹介される。
3. 男性も座ってするのが最近の傾向だけど…立って排尿、男児に教える？どう教えている？		2021年7月	エデュケーター7月号 (No. 104)、臨床育児・保育研究会	保育園での男児への排泄の指導方法についてインタビュー記事が掲載される。
4. 子どもとトイレ なぜ子どもはうんちが好き？		2022年3月	クーヨン3月号、クレヨンハウス	乳児期の排泄と親子関係について、幼児期からの便育の重要性についてインタビュー記事が掲載される。
(招待講演・基調講演)				
1. 乳児保育 排泄		2009年9月	信州豊南短期大学乳児保育特別講師	保育科の短大生を対象に乳幼児の排泄行動の特徴と排泄教育についての指導方法について指導。保育士コースの学生が現場に出て使える指導方法を絵本を使って指導
2. 子どもの排せつとトイレ環境		2010年8月	さいたま市保育園協会研修会講師	現役の保育士を対象に乳幼児にとっての排せつの意味と排せつ教育について講演

3. 子どもの排せつとトイレ環境	2009年9月	埼玉県北足立北部養護教諭研修会講師	小学校、中学校の養護教諭120名を対象に児童生徒の排せつに対する意識と排せつ教育の指導について講義
4. 乳児保育 排泄	2011年5月	信州豊南短期大学乳児保育特別講師	保育科の短大生を対象に乳幼児の排泄行動の特徴と排泄教育についての指導方法について指導。保育士コースの学生が現場に出て使える指導方法を絵本を使って指導
5. 幼児と排泄	2011年5月	高崎健康福祉大学公開講座講師	市内の親子を対象に排せつの大切さ、排せつ教育についてイベントを交えた講座を実施 絵本を使った親子向けのお話。
6. うんこの大研究 ～絵本で知ろう、学ぼう、うんこのこと～	2011年9月	宮崎県日向市家庭教育講座講師（宮崎県教育委員会）	200組の親子を対象に排泄の大切さ、意味を講演。 絵本を使った楽しい排泄教室
7. 子どもの排せつとトイレ環境	2011年10月	北海道学校給食普及充実事業研修会講師	100人の教員および一般市民を対象に幼児期から児童期の排泄行動の特徴と排泄教育の方法について指導、食育と関連した排泄指導の大切さを伝える。
8. うんこの大研究 ～絵本で知ろう、学ぼう、うんこのこと～	2011年10月	「栄養教諭を中核とした食育推進事業」に関わる食育講演会講師（北海道稚内地区）	幌延町立問寒別小中学校の児童、稚内地区の栄養教諭・栄養士を対象に児童期の排泄の特徴と排泄教育の指導
9. 子どもの排せつとトイレ環境	2011年11月	長野県伊那市上伊那幼年教育研究会	伊那市上伊那の保育士、小学校教諭150名を対象に乳幼児および児童の排泄行動と排泄教育について講演 現場で活用できる絵本を使った指導方法を解説
10. 幼児と排泄	2012年7月	城西国際大学子ども福祉コース講師	子ども福祉コースの学生を対象に乳幼児期の子どもの排泄行動の特徴と排泄教育の指導方法について講演。 また学童期の子どもの排泄に対する意識調査の報告と、保育士コースの学生が現場で使える指導方法を絵本を使って指導。
11. こんな保育園があったらいいな！	2012年10月	高崎健康福祉大学短期大学部児童福祉学科講師（保育者論）	学生自身が架空の保育園を立ち上げ企画・運営するというテーマに合わせて講演。保育方針や教育方針をどのように考え、自分自身の保育に対する信念をどのように表現するか事例を紹介しながらワークショップ方式で実施。

12. うんこの大研究 ～ 絵本で知ろう、学ぼう、 うんこのこと～	2013年2月	上山市平成24年度ふれあい福祉活動応援事業 子育てを支援する講演会	100人の親子を対象として、絵本を活用した排泄教育を実施。
13. 幼児にとって排泄は コミュニケーションの ツール	2013年8月	日本キリスト教保育所同盟夏季保育大学講師	乳児の排泄と排泄環境について講演。乳児の排泄行動は養育者とのコミュニケーション活動の一部であり、排泄環境の状態によって保育の質も変化する。
14. 絵本から「便育」	2013年11月	延岡市法人立保育園4園合同絵本作家特別講演	園児400人を対象に排泄教育を実施。
15. 「うんこ」のお話	2014年2月	小松市 自分らしく暮らし続けられるまちづくり 排泄教育講演	地域住民400人を対象に排泄教育を実施。
16. 絵本から「便育」	2014年6月	山口県光市野原保育園講演会	園児と保護者を対象に、絵本を通じた排泄教育について講演。
17. 排泄の大切さと便の チェックポイント	2014年6月	津島市立神島田小学校保健授業	全校生徒500人を対象に排泄教育を実施。
18. 便育ってなあに？	2015年4月	福岡市Hanako塾スクスク便イク	親子200人を対象に排泄教育「便育」を実施。
19. 保育園の環境について	2015年4月	新潟県私立保育園連盟平成27年度園長研修会	子どもの育ちに活かす保育環境について100名の園長、保育士を対象に実施。
20. 子どもの発達と排泄	2015年5月	川崎市認可保育園職員研修	100名の保育士を対象に保育園での排泄指導、及び子どもの発達について講演を行う
21. すっきりうんちで心も 身体も心地よい生活	2015年6月	小松市第6回ワールドコンチネンスウィーク 市民公開講座「生きるセンスたべるセンス出すセンス」	180名の市民を対象に排泄をめぐる母子関係と排泄教育について講演。
22 絵本を使った排泄教育 排泄をめぐる親子の 関係	2015年6月	長崎市「みんなにやさしいトイレ会議」第3回シンポジウム 排泄教育講演	200人の親子を対象として、絵本を活用した排泄教育を実施。

23 絵本を使った排泄教育	2016年1月	浦添市 絵本ワールド	200人の親子を対象として、絵本を活用した排泄教育を実施。
24 各クラスの 発達と保育環境を考える	2016年4月	さいたま市 浦和ひなどり保育園職員研修会	各クラスの保育室の環境構成について理論とワークショップを実施
25 がっこうでトイレにいけるかな？（児童向け） 子どもとトイレと排泄（保護者向け）	2016年9月	つくば市立洞峰学園二の宮小学校家庭教育学級	1年生児童と全学年保護者を対象に排泄教育について講演
26 保育室と園庭の環境デザイン	2016年10月	川崎市ひよし保育園園内研修	生活動線を考えた室内環境のデザイン（排泄、手洗い、片付け、着替え、身支度）と運動遊び、科学遊びを創造する園庭デザインについてワークショップを行う。
27 小松市レッツうんこコミュニケーション ートイレワールドのふたを開けてみようー	2016年11月	小松市ふるさと共創チャレンジ事業	200名の市民を対象に排泄をめぐる母子関係と排泄教育について講演。
28 小松市0歳から100歳以上の便育 レッツうんこコミュニケーション	2017年11月	小松市ふるさと共創チャレンジ事業	200名の市民を対象に排泄をめぐる母子関係と排泄教育について講演。
29 幼児期の終わりまでに育てて欲しい姿／子どもの主体性、協同性を引き出す園庭を考える	2018年4月	さいたま市 浦和ひなどり保育園保護者会及び職員研修会	50人の保護者及び40人の職員を対象に研修を実施
30 絵本と便育	2018年5月	防府市勝間保育園	幼児とその保護者を対象に絵本を使った便育講座を実施
31 絵本と便育	2018年6月	周南市めぐみ幼稚園、光市野原保育園	幼児とその保護者を対象に絵本を使った便育講座を実施
32 保育記録、ドキュメンテーションの書き方	2018年6月	さいたま市 浦和ひなどり保育園職員研修会	30人の職員を対象にワークショップ形式で実施
33 幼児教育とトイレ	2018年7月	北京 国際公益学院	30人の参加者を対象に2日間、日本の保育所トイレの事例と子どもの発達について講義を行い、中国が抱える幼児用トイレの課題についてグループワークで話し合った。 (再掲)
34 公開保育講評	2018年8月	さいたま市菁莪保育園	公開保育の見学と講評を行う

35 0歳から100歳までの 便育	2018年11月	コンチネンスケアイ ノベーションセン ター	100名の親子、市民を対象に便育講座 を行う。
36 絵本と便育	2019年1月	柳井市若葉保育園	幼児とその保護者を対象に絵本を 使った便育講座を実施
37 どうして子どもは 「うんち」が好きな の？ ～親子関係と 深いかかわりがあり ます～	2019年2月	常磐大学幼稚園 保護者勉強会	30名の保護者を対象に排泄をめぐる 親子関係について講演
38 絵本と便育	2019年5月	山口県周南市南陽幼 稚園	幼児とその保護者を対象に絵本を 使った便育講座を実施
39 絵本と便育	2019年5月	山口県光市 虹ヶ丘 幼児学園	幼児とその保護者を対象に絵本を 使った便育講座を実施
40 便育ってなあに？	2019年6月	長崎市「みんなにや さしいトイレ会議」 第5回トイレシンポ ジウム	100名の市民・親子を対象に便育講座 を行う。
41 子どもと排泄―「便 育」のすすめ―	2019年8月	山口市保育協会地域 子育て支援部会・保 育士会共同研修会	現場の保育士及び栄養士200人を対象 に「便育講座」を行い、幼児の排泄 に関する指導方法と幼児の排泄や排 泄行動における発達研究について講 演した。
42 ウンチでわかる体の 健康 便育 子ども も大人も元気な体づ くり	2022年6月	世田谷保健所健康推 進課こころと体の健 康担当（オンライン 開催）	区内在住の乳幼児、小学生をお持ち の方などを対象にウンチを見て自分 の体調をふりかえる、排便リズムの 工夫について講演を行なった。
43 第18回うんと知りた いトイレの話 乳幼児のためのトイ レプランニング	2022年11月	一般社団法人日本ト イレ協会（オンライ ン開催）	約20年間で手掛けてきた幼稚園・保 育園におけるトイレ環境のプラン ニングに関する内容をまとめて報告し た。工学的なことだけでなく、子ど もの発達を捉え、その上でどのよう な保育を行うことが良いのかという 視点で排泄支援を考えた。
44 第2回子どもとトイ レ勉強会 トイレの音環境につ いて	2023年3月	一般社団法人日本ト イレ協会（オンライ ン開催）	トイレの音環境について3名の講師で 発表を行った。ほかの2名が工学的な 観点から音をカモフラージュする方 策についてのテクニカルな知見と、 どのような対策を利用者が望んでい るかを質問紙調査した結果を発表 し、村上は排泄時の音に対しての羞 恥心がどのように発達していくかを 述べた。

45 第44回からだ発達研究会 排泄から発達をみる		2023年5月	からだ発達研究会 (オンライン開催)	まず「恥ずかしさの対象としての排泄」について、幼児期から大学生までの排泄行動における恥ずかしさがどのように発達するのか、次に「コミュニケーションを引き出す排泄」について、幼児期のオムツ交換場面における養育者とのやり取りから子どもが親からの身体接触や関りを引き出す方策などを報告する。また「環境に影響を受ける排泄」について、保育園のトイレ環境や保育方法によって排泄の発達や自立にどんな影があるのかをオマルを使った保育事例から報告した。
------------------------------	--	---------	-----------------------	--

研 究 活 動 項 目

助成を受けた研究等の名称	代表, 分担等の別	種 類	採択年度	交付・受入元	交付・受入額	概 要
(科学研究費採択) 1.						
(競争的研究助成費獲得(科研費除く)) 1.						
(共同研究・受託研究受入れ) 1.						
(奨学・指定寄付金受入れ) 1.						
(学内課題研究(共同研究))						
(学内課題研究(各個研究))						
1. 床面の肌理の違いによる身体接触の現れ方 —3~5歳児のあそびから—	代表	各個 ○	2016年度		156,000円	近年の子どもの遊び方を見ていると、おしくらまんじゅうや胴馬のように身体と身体を触れ合わせるような遊びは減少しているように思われるが、「じゃれつきあそび」などは前頭葉の機能を高め、こどもの集中力や社会性を向上させる働きがあるとされている。 本研究は保育室の床面の肌理の違いで、幼児同士、または幼児と保育者の間で身体接触の発現のしかたに違いが生じるのかどうかを検討することが目的である。床面、マット、クッションの3種類で身体接触の発現の様子を観察し、頻度や接触の意味を分析する。これらの分析結果をもとに保育園や幼稚園の室内環境設定を見つめなおすきっかけとしたい。
(知的財産(特許・実用新案等)) 1.						